

連載33

そして音楽の旅は続く

出会ってその時の1発がベストテイク

15歳でポピュラーソングコンテストにエントリーし、YAMAHAで“歌は世につれ”でデビュー。音楽出版社勤務の後に東芝EMI“この愛に生きて”で再デビュー。EMIを辞めてからスタジオワークと作詞家業。思い起こせばいろいろと面白くてキツイ日々でした。そしてスタジオワークと作詞家をコツコツと15年ほど継続していた2004年のある日、音楽仲間からジャズクラブのセッションに誘われました。セッションとかオープンマイクというのは、ハウスミュージシャンがお店にスタンバイしてて誰でも参加できる日のことです。え〜!無理〜。ジャズの歌なんて知らないし、ジャズクラブには行ったことがないし、お酒の席なんかで唄ったことがないし…。この頃の私は、ジャズクラブって暗いお店で酔っ払いだらけ、気難しい不良の人達の溜まり場ってイメージだったので、最初はお断りしたのですが、結局お付き合いについて行くことになりました。ジャズの曲をほとんど知らないの、友人に相談して“Take The “A” Train”、“Cry Me A River”、“Misty”の3曲を覚え、いざ六本木へ!不良の巣窟に入るみたいで怖かったけれど、あれ〜意外と平気かも〜。皆さん音楽好きな紳士淑

女!軽くお酒も入って和やかです。「君はJAZZを本当に解ってるの?」なんて難しい事を言われたら尻尾を丸めて逃げようと考えていましたが、ホッとしました〜。順番が回ってきて超緊張しながらも“Misty”を唄い、次に“Cry Me A River”を唄い…あれ?ピアニストさんが演奏しながらギヤギヤ怒ってる、でも私は何も分からず修正不可能。急に引込む訳にもいかず、とにかくそのまま最後まで唄いましたが、私はどうしてもその訳を知りたくて休憩中のピアニストさんをお訪ねしました。あの…何がまずかったか、教えていただきたいのですが。そのピアニストさんが今も弾いてもらっている岩谷泰行さんです。あの夜は、岩谷さんのピアノトリオと、ライブが終わって遊びに来ていた山本剛さん、大隅寿男さんが入れ代わり立ち代わり、それこそセッションでした。“Misty”が山本剛さんの代表曲と知らずに歌っちゃって、今思えばお恥ずかしい限りですね。“Cry Me A River”を間違えて岩谷さんに出会えたことは、本当に幸せな運命でした。そしてこの夜、私はこれまでの音楽生活に新しい驚きと新鮮な感動が加えられました。今までジャンルを超えていろんな体験しましたが、いずれも

ジャズボーカリスト

星乃けい

official website

<https://www.hoshinokei.com>

ハーサルを何度も重ねて最高の一つに向かって研ぎ澄ましていく音楽でした。それしか知らなかったし、練習の結果としてベストテイクを提供するのは音楽に携わる人として当たり前でしょ!とっていました。しかしながら、JAZZは違った!出会ってその時の1発がベストテイクでした。あの日、私がしたことはマイクを持って譜面も無しで、“Misty”をA b だけで言っただけ。それだけなのに、あんなに素晴らしい演奏、お互いが分かり合える喜びに溢れて「この中に入りたい!」と震えました。もうJAZZに首ったけ!



Photo: Yeshiro Yasuda

2005年12月14日、ジャズシンガーとして待望のリーダーアルバム「NEARNESS OF YOU/星乃けい」、2006年12月20日「IN A SENTIMENTAL MOOD/星乃けい」をリリース。ジャズファン、ジャズメン、オーディオファンから高く評価支持される